

遣隋使の派遣

隋の煬帝の時代、大業3(607)年、倭の王多利思比孤が使い(小野妹子)を遣わして貢ぎ物をもってきた。その使者は「海西の菩薩天子(煬帝)が熱心に仏教を盛んにしていると聞き、使いとしてやってまいりました。また、数十人の僧侶が仏教を学ぶために私と一緒にやってまいりました。」と言って、倭国からの手紙をさしだした。その手紙には「日が出るところの天子が、日が沈むところの天子に手紙をさしあげます。お元気ですか。……」と書いてあった。煬帝はこれを見て不機嫌になった。

(「隋書」倭国伝)